

《書道コンクール》

I 募集要項

1. 応募資格

福島県内の小学校および中学校(義務教育学校等含む)、特別支援学校の小学部・中学部(以下「小・中学校」という。)に在籍する児童・生徒とします。

2. コンクールの主催

県コンクールは福島県内の「農業協同組合」(以下「JA」という。)と「全国共済農業協同組合連合会福島県本部」(以下「県本部」という。)が主催し、参加作品の募集は、各JAの所在区域内における小・中学校を対象に実施することとします。

3. 応募手順

県コンクールへの参加作品は、各小・中学校から所在区域を管轄するJAを経由し、県本部へ応募することとします。

(「応募者一覧表」に必要事項を記入し、「出品券」を必ず作品に貼付してください。)

※主催者より配付します。

4. 応募点数

県コンクールへの応募点数は、「半紙の部」・「条幅の部」とも**各学年のクラス数まで**とします。

※ 各学年の制作点数*が、上記の応募点数を超過する場合は、学年ごとに作品を選定してからJAへ応募してください。

(※制作点数・・・児童・生徒が学校に提出した作品数)

※ 「特別支援学級」「複式学級」のクラス数および応募点数の考え方

◇特別支援学級◇

在籍している児童・生徒の学年に1クラスを加算してください。

【例】各学年1クラスの小学校で、支援学級に「1年生」「5年生」の児童が在籍している場合

第1学年⇒1クラス+1=2クラス(作品応募点数の上限は2点)

第5学年⇒1クラス+1=2クラス(" 2点)

第2・3・4・6学年⇒各1クラス(" 各クラス1点)

◇複式学級◇

学年ごとに1クラスとしてください。

【例】第1学年と第2学年が複式学級となっている場合

第1学年⇒1クラス(作品応募点数の上限は1点)

第2学年⇒1クラス(" 1点)

5. 応募締切日

令和5年8月31日(木) 各小・中学校の所在区域を管轄するJA必着とします。

6. 審査委員

審査委員長・副委員長：福島県教育委員会

審査委員 ：後援・協賛団体および県本部の各代表者

7. 賞

【個人】

(1) 半紙の部

① J A 共済連福島 本部長賞

ア	金賞	各学年	1 点	(賞状・副賞)
イ	審査委員特別賞	各学年	1 点	(賞状・副賞)
ウ	銀賞	各学年	2 点	(賞状・副賞)
エ	銅賞	各学年	3 点	(賞状・副賞)
オ	佳作	各学年	4 点	(賞状・副賞)

②特別賞

ア	福島県知事賞	上記①のアより 1 点	(賞状・副賞)
イ	福島県教育委員会教育長賞	〃 1 点	(賞状・副賞)
ウ	各協賛団体賞	上記①のア・イより若干点	(賞状・副賞)

(2) 条幅の部

① J A 共済連福島 本部長賞

ア	金賞	各学年	1 点	(賞状・副賞)
イ	審査委員特別賞	各学年	1 点	(賞状・副賞)
ウ	銀賞	各学年	2 点	(賞状・副賞)
エ	銅賞	各学年	3 点	(賞状・副賞)
オ	佳作	各学年	4 点	(賞状・副賞)

②特別賞

ア	福島県知事賞	上記①のアより 1 点	(賞状・副賞)
イ	福島県教育委員会教育長賞	〃 1 点	(賞状・副賞)
ウ	各協賛団体賞	上記①のア・イより若干点	(賞状・副賞)

【団体】

「学校賞」	小学校	1 校	(賞状・副賞)
	中学校	1 校	(賞状・副賞)

ー選定基準ー

【個人賞】①（J A 共済連福島 本部長賞）のア～オの各賞について、金賞・審査委員特別賞を各 4 点、銀賞を 3 点、銅賞 2 点、佳作 1 点と配点し、半紙の部・条幅の部を合わせた合計点数が最も多い学校に対して授与します。

※同点の場合は、上位の賞への入賞がある学校を優先します。

【奨励賞】

「奨励賞」 各小・中学校 1点 (賞状)

各小・中学校より応募いただいた作品の中から、学校長の推薦を受けた児童・生徒の作品1点に対し授与します。(半紙・条幅の部を合わせた書道の部で1点)

※「奨励賞推薦書」を提出してください。(主催者より配付します。)

応募者の中から2名をご推薦願います。(第1順位、第2順位)

第1順位の推薦を受けた児童・生徒が個人賞(1)・(2)の①ア～オのいずれかに入賞した場合、第2順位の推薦を受けた児童・生徒に授与いたします。

第2順位の推薦を受けた児童・生徒も個人賞(1)・(2)の①のア～オのいずれかに入賞している場合、奨励賞の授与はありませんのでご了承ください。

ただし、「奨励賞推薦書」の提出があった場合でも、次の場合には該当しないものとします。

- ① 推薦を受けた児童・生徒の作品が規格相違等により審査対象外となった場合
- ② 奨励賞推薦書に学校長の押印がない場合

【参加賞】

県コンクール参加者全員に、記念品を贈呈します。

8. 入賞発表

県コンクールの審査会は9月下旬(予定)に行い、入賞者は県内新聞紙上およびJ A共済連福島ホームページ等において発表するとともに、各J Aを通じて各小・中学校宛に通知します。
なお、表彰式は11月中旬(予定)に行います。

9. 全国コンクール

半紙・条幅の部とも、各学年の最高位(金賞)の作品1点を全国コンクールへ出品いたします。

10. 著作権の扱いについて

入賞作品の著作権および、作品の二次使用等に関する一切の権限(著作者人格権を侵害しない程度の加工を含む)は、応募のときから期間の制限なく全国共済農業協同組合連合会に帰属するものとします。

なお、応募作品については、返却いたしませんのでご了承ください。

11. 個人情報の取扱いについて

応募者氏名、学校名等については、応募者名簿を作成する等のコンクール業務に必要な範囲でのみ利用します。また、入賞者の作品をはじめ、氏名、学校名等を新聞掲示・作品集の作成・ホームページ等への掲示等コンクール業務に利用するとともに、入賞者については、資材等の作成に相当と判断した場合、利用させていただく場合がありますのであらかじめご了承ください。

Ⅱ 課 題 等

1. 課 題

区分		半 紙 の 部	条 幅 の 部
小 学 生	第 1 学年	う め	ゆ か り
	第 2 学年	つ ば め	あ お ば
	第 3 学年	よ ろ こ び	花 だ よ り
	第 4 学年	陽 光	親 し い 友
	第 5 学年	広 が る 夢	芸 術 の 秋
	第 6 学年	尊 敬 の 念	故 郷 の 風 景
中 学 生	第 1 学年	相 互 扶 助	食 育 の 推 進
	第 2 学年	開 拓 精 神	崇 高 な 理 想
	第 3 学年	虚 心 坦 懷	真 摯 な 態 度

2. 作品応募規格

(1) 応募作品

①用 紙 ア. 半紙の部・・・タテ約 33 cm×ヨコ約 24 cm

 イ. 条幅の部・・・タテ約 136 cm×ヨコ約 35 cm（画仙紙半切）

※ 一般的に使用されるものと異なるサイズの紙は使用しないでください。

※ 紙のサイズは地域によって多少異なります。（上記サイズより長短 3 cm 程度までは可とします。）

※ 上記の規格以外の用紙を使用した場合、審査の対象となりませんのでご注意ください。

※ 上記ア、イのどちらも「表装」・「裏打ち」・「押印」等はしないでください。

②書 体 小学生は楷書、中学生は楷書または行書とします。

③字 体 小学校の学習指導要領（別表 1）の学年別漢字配当表に示す字体に準ずるものとします。

(2) 学年・氏名の記入方法

作品への学年・氏名の記入は次のとおりとします（図例 1・2）。

(学 年)	(氏 名)
○ 年	○○○○○

※ 3 文字の課題の場合のみ、学年・氏名の位置は、図例 1、2 どちらでも可とします。

①小学校第 1 学年および第 2 学年

学年・氏名とも「漢数字」「漢字」「ひらがな(カタカナも可)」のいずれでもかまいません。
ただし、アラビア数字は使用しないでください。

②小学校第 3 学年以上

学年は「漢数字」、氏名は原則「漢字」とします。

※義務教育学校等の学年表記については、学校の考え方に準じ、「七年、八年、九年」の記載を可能とします。

なお、次のア～ウ（図例 3～6）に該当する場合は、審査の対象にはなりませんのでご注意ください。

ア. 学年、氏名のないもの（図例 3）

イ. 小・中学校の別を記入したもの（図例 4）

ウ. 学校名を記入したもの（図例 5） ※学校名のスタンプ等も押さないでください。

エ. 学年と氏名の順を誤って記入したもの（図例 6）

正しい書き方		誤った書き方			
図例 1	図例 2	図例 3	図例 4		図例 5
一年 共済太郎 名札	○ 共済太郎 ○ 一年 ○ 名札	名札	小学校一年 共済太郎 名札	小一 共済太郎 名	平河小学校一年 共済太郎 名札
		学年・氏名のないもの	小・中学校の別を記入したもの		学校名を記入したもの
					学年・氏名の順を誤って記入したもの

学校名のスタンプは押さないでください。

(3) 出品券の貼付け・記入方法

主催者より配付する「出品券」に、学年・氏名を記入し、必ず**応募作品の左下**に貼り付けてください。

フリガナも必ず記入してください。

配付したもの以外を使用する場合は、次の例に示すようにタテ8 cm×ヨコ12 cmの用紙に、県名・学校名・学年・氏名・所属JA名を明記し、**応募作品の左下**に必ず貼り付けてください。
なお、**出品券がついていない作品は審査の対象となりません**のでご注意ください。

<例> 【出品券の仕様】

【出品券の貼付け位置】

(作 品)	
県 名	福 島 県
フリガナ	
学 校 名	県・市・町・村 立 学 校
学 年	年
フリガナ	
氏 名	
フリガナ	
J A 名	J A

8 cm

12 cm

(拡大図)

○年
氏
名

出品券

※「応募者一覧表」・「奨励賞推薦書」・「出品券」はいずれもホームページからダウンロードできます。

<https://www.10action.jp> 10 アクション で検索できます。

Ⅲ 主催・後援・協賛団体

主 催 農業協同組合
全国共済農業協同組合連合会福島県本部

後 援 福島県
福島県教育委員会

協 賛 福島民報社
福島民友新聞社
ラジオ福島
福島テレビ
福島中央テレビ
福島放送
テレビユー福島
ふくしまFM

(順不同)

以 上

小学校学習指導要領

学年別漢字配当表

第一学年	一 右 雨 田 王 音 下 火 花 貝 学 気 九 休 玉 金 空 月 犬 見 五 口 校 左 三 山 子 四 糸 字 耳 七 車 手 十 出 女 小 上 森 人 水 正 生 青 夕 石 赤 千 川 先 早 草 足 村 大 男 竹 中 虫 町 天 田 土 二 日 入 年 白 八 百 文 木 本 名 目 立 力 林 六 (80字)
第二学年	引 羽 雲 園 遠 何 科 夏 家 歌 画 回 会 海 絵 外 角 楽 活 間 丸 岩 顔 汽 記 帰 弓 牛 魚 京 強 教 近 兄 形 計 元 言 原 戸 古 午 後 語 工 公 広 交 光 考 行 高 黄 合 谷 国 黒 今 才 細 作 算 止 市 矢 姉 思 紙 寺 自 時 室 社 弱 首 秋 週 春 書 少 場 色 食 心 新 親 図 数 西 声 星 晴 切 雪 船 線 前 組 走 多 太 体 台 地 池 知 茶 昼 長 鳥 朝 直 通 弟 店 点 電 刀 冬 当 東 答 頭 同 道 読 内 南 肉 馬 壳 買 麦 半 番 父 風 分 聞 米 歩 母 方 北 毎 妹 万 明 鳴 毛 門 夜 野 友 用 曜 来 里 理 話 (160字)

第三学年	惡安暗医委意育員院飲運泳馱央橫屋溫化荷界 開階寒感漢館岸起期客究急級宮球去橋業曲局 銀區苦具君係輕血決研鼎庫湖向幸港号根祭皿 仕死使始指齒詩次事持式實写者主守取酒受州 拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神 真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題 炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄軫都度投豆島 湯登等動童農波配倍箱畑發反坂板皮悲美鼻筆 氷表秒病品負部服福物平返勉放味命面問役藥 由油有遊予羊洋葉陽樣落流旅両緑礼列練路和 (200字)
第四学年	愛案以衣位茨印英榮媛塩岡億加果貨課芽賀改 械害街各覚渴完官管関観願岐希季旗器機議求 泣給拳漁共協鏡競極熊訓軍郡群径景芸欠結建 健驗固功好香候康佐差菜最埼材崎昨札刷察参 産散殘氏司試児治滋辞鹿失借種周祝順初松笑 唱焼照城縄臣信井成省清静席積折節說浅戰選 然争倉巢束側続卒孫帶隊達単置仲沖兆低底的 典伝徒努灯働特徳枋奈梨熱念敗梅博阪飯飛必 票標不夫付府阜富副兵別辺変便包法望牧末満 未民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例連老 勞録 (202字)

第五学年	庄圉移因永堂衛易益液演忝往桜可仮価河過快 解格確額刊幹慣眼紀基寄規喜技義逆久旧救居 許境均禁句型經潔件險檢限現減故個護効厚耕 航鉉構興講告混查再災妻採際在財罪殺雜酸贊 士支史志枝師資飼示似識質舍謝授修述術準序 招証象賞条状常情織職制性政勢精製稅責績接 設絶祖素総造像増則測属率損貸態団断築貯張 停提程適統堂銅導得毒独任燃能破犯判版比肥 非費備評貧布婦武復複仏粉編弁保墓報豊防貿 暴脈務夢迷綿輸余容略留領歴 (193字)
第六学年	胃異遺域宇映延沿恩我灰拡革閣割株干卷看簡 危机揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇激穴券絹権 憲源巖己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁 策冊蚕至私姿視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆從 縦縮熟純処署諸除承将傷障蒸針仁垂推寸盛聖 誠舌宣専泉洗染銭善奏窓創装層操蔵臓存尊退 宅担探誕段暖値宙忠著庁頂腸潮賃痛敵展討党 糖届難乳認納脳派拝背肺俳班晩否批秘俵腹奮 並陞閉片補暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訳郵優預 幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論 (191字)

字体についての解説

明朝体と筆写の楷書との関係について

常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体のうちの一種を例に用いて示した。このことは、これによって筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであっても、明朝体の字形と筆写の楷書の字形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。以下に、分類して、それぞれの例を示す。いずれも「明朝体－手書き（筆写の楷書）」という形で、左側に明朝体、右側にそれを手書きした例を示す。

1 明朝体の特徴的な表現の仕方があるもの

(1) 折り方に関する例

衣－衣 去－去 玄－玄

(2) 点画の組合せ方に関する例

人－人 家－家 北－北

(3) 「筆押さえ」等に関する例

芝－芝 史－史

入－入 八－八

(4) 曲直に関する例

子－子 手－手 了－了

(5) その他

讠－讠 々－々 心－心

2 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの

(1) 長短に関する例

雨－雨 雨 戸－戸 戸 戸

無－無 無

(2) 方向に関する例

風－風 風 比－比 比

仰－仰 仰

糸－糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

主－主 主 言－言 言 言

年－年 年 年

(3) つけるか、はなすかに関する例

又－又 又 文－文 文

月－月 月

条－条 条 保－保 保

(4) はらうか、とめるかに関する例

奥－奥 奥 公－公 公

角－角 角 骨－骨 骨

(5) はねるか、とめるかに関する例

切－切 切 切

改－改 改 改

酒－酒 酒

陸－陸 陸 陸

穴－穴 穴 穴

木－木 木

来－来 来

糸－糸 糸

牛－牛 牛

環－環 環

(6) その他

令－令 令 外－外 外 外

女－女 女 叱－叱 叱 叱